



# 近代日本の身体文化・大衆文化史 社会史・精神史

人文科学系・人間科学領域

鈴木 康史

教授

SUZUKI Koshi

博士(体育科学)(筑波大学)

■研究キーワード 近代日本, 身体文化, 大衆文化, スポーツ, 文学, 冒険・探検, 押川春浪, 武士道, 旧制高校, 学生文化

■主な所属学会 日本体育・スポーツ哲学会, 日本体育学会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.93e89cb02a6a43b7520e17560c007669.html>



研究者総覧

## 研究概要

・ 明治～大正時代の「身体文化」について研究しています。スポーツや武道などのいわゆる「身体文化」だけでなく、健康、衛生などの領域や、「身体」に関わる様々な大衆文化について幅広く目配りしながら、文学や漫画、絵画、その他さまざまなポップカルチャーにおける身体に注目して、研究をしています。特に、明治期に活躍した冒険小説作家にして、日本野球のルーツにいる人物としても名高い押川春浪という人物に注目しています。

・ 最近では、押川つながりで、近代日本の「冒険・探検」についての研究が中心となっています。「冒険・探検」とは一風変わった研究対象だと思われるかもしれませんが、しかしわれわれの社会において「冒険・探検」をする人々がいなくなることはありませんでした。つまり、そのような人々は、社会に何らかの形で必要とされている人々なのかもしれない。では、「冒険者/探検者」は実際社会にどのような役割を果たしているのかについて、考えています。



←鈴木康史編著  
『冒険と探検の  
近代日本』  
せりか書房

## アピールポイント

・ 近代社会において「身体」という領域は、長らく忘れ去られた存在でした。われわれは人間の一番大事な部分、ある人がある人であるとされる最も重要なアイデンティティを「精神」に求めてきました。

・ 「文化」の領域においても、やはりそれは同様で、文学や絵画、音楽などは、人間の高度な「精神性」を表現したものが高尚なものであり、偉大なものであり、そしてアカデミズムにおいても研究の対象たり得る、と考えられてきました。教育の世界においても、やはり「体育」は「知育」よりも軽視されており「身体」は「精神」に対して下位に位置付けられてきましたし、例えば「男/女」カテゴリーにおいても「男性は精神性が高く、女性は身体的な劣った存在だ」となどという言説がまかり通っていた時代もありました。

・ 私は、そうした常識に対して、われわれが作り出す「文化」には「身体」が抜き難く宿っているということ、決してそれは「精神」の下位に位置付けられるものではないこと、むしろわれわれは常に「身体的な存在」として生きているということを思考の基本として、近代の諸文化、社会を研究しようと考えています。

・ こうした視点から見えてくるのは、これまでアカデミズムが着目してこなかった領野や人々、忘れ去られた人々や文化です。私の研究は、そうしたものを拾い上げて、そこにもまた私たちが忘れ去るべきでない何かがちゃんと宿っているということ、それはやはり我々の「社会」が生み出したものであり、社会に大きな意味を持っているものであることを明らかにしようとしています。「冒険・探検」も同様にアプローチの中で発見された対象です。

・ また最近では、授業のなかで、奈良女子大学の卒業生にインタビューをし、それを冊子としてまとめる作業も行っています。女性がいかにこの社会において生きてきたのか、対面で、生の声を聞き取ることで、彼女たちの身体と精神すなわち存在そのものをきちんと後世に伝えていければと考えています。